

# 1. 親元未婚女性の10年間の変化

## (1) 収入・支出に変化は少ないものの堅実化の傾向

「パラサイトシングル」といわれる未婚で親と同居する人の生活がかつて注目されたが、未婚者の状況は大きく変化している。ここでは、2005年と2015年それぞれの時点で、26～35歳で親と同居する女性の経済状況について比較した。

まず収入面をみると、年収は2005年の平均が241.2万円、2015年は247.2万円と若干増加しているが、手取り収入は月17.4万円から16.9万円とやや減少している。総じて、収入面では大きな変化がみられない。

一方、支出面をみると、支出合計額は、10.9万円から10.2万円へ低下、自由裁量支出(注)も、4万4千円から4万円と減少している。親へ収入を渡す人の割合はほぼ変わらないが、渡している人の平均額は約3.4万円から3.1万円と低下し、貯蓄額が2.6万円から3.1万円へ増加している。

全体として、2005年と2015年では大きな変化はみられないものの、正規就業の割合が低下し、手取り収入は減額、支出を低くおさえ、貯蓄にまわす傾向がみられ、親元未婚女性の生活状況は以前よりも堅実化している。

図表1 親元未婚女性の生活状況 2時点比較

	2005年 (299人)	2015年 (298人)
年収(平均・万円・税込み)	241.2	247.2
手取り月収(平均・万円)	17.4	16.9
1ヵ月の支出計(平均・万円)	10.9	10.2
うち自由裁量支出	4.4	4.0
1ヵ月の貯蓄額(平均・万円)	2.6	3.1
-----		
親へ収入を渡すか(%)		
(渡さなかった)	34.1	34.9
(一部渡した)	54.8	53.7
(その他)	11.1	11.4
親へ渡した額 (平均・万円)	3.4	3.1
-----		
就業率(%)	87.3	85.9
うち正規割合(%)	69.8	59.4

(注)自由裁量支出:1ヵ月あたりの衣類・履物、教養・娯楽、交際費の合計

# 1. 親元未婚女性の10年間の変化

## (2) 生活程度が「中の下」と思う人が増加

このような経済状況のなか、意識の面ではどのように変化しているのだろうか。(1)と同様に2005年と2015年それぞれの時点で、26～35歳で親と同居する女性を対象に、自分の生活程度が世間一般からみて、「上」「中の上」「中の中」「中の下」「下」のどれにあたると思うかを尋ねた。

「中の中」と答えた人は2005年は57.9%だったが2015年には50.3%に減少している。一方、「中の下」と答えた人は18.1%から25.5%に増加している。

本人の経済状況には2時点で大きな差はなかったにもかかわらず、正規就業者の割合の低下がみられる中で、自らの生活程度を低めに評価する人が増えていることがわかる。

図表2 生活程度の2時点比較(2005年と2015年)

